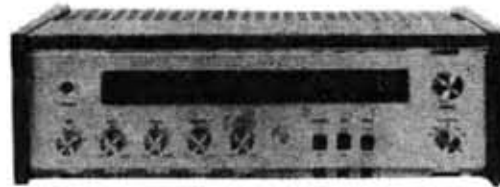


ハイファイ装置の決定版ノ音の人工頭脳MFB方式を採用した

# 〈MFB〉ステレオアンプ SA-51 〈MFB〉スピーカシステム SB-88 のすべて



FM ステレオ放送の本格化に伴い、セパレートタイプのステレオが、市場で非常な関心を呼んでおりますが、今回発売いたしました〈MFB〉ステレオアンプSA-51型及び〈MFB〉スピーカシステムSB-88型は、話題の「音の人工頭脳MFB方式」を採用した、ハイファイ装置の決定版ノ音質・性能とも抜群で、FM時代にふさわしい装置です。

オイルフィニッシュ加工したソフトな手ざわりの木製キャビネットと、ゴールドカラーをマッチさせた格調高いデザイン。使いやすいツマミの配置、場所を取らない大きさは、音にうるさいオーディオファンの間でも大好評です。

では、そのすばらしい魅力を探ってみましょう。

## 〔1〕構造上から見た SA-51

SA-51では、ツマミの配置をできるだけ使いやすいように考慮してあります。(第1図)

使用ひん度の多いツマミ、たとえば、音量ツマミ・セレクトスイッチ・MFBスイッチなどは、すぐ手を出せるように端の方に配置し、同調ツマミは直径を大きくしてフライホイールも付け、同調の

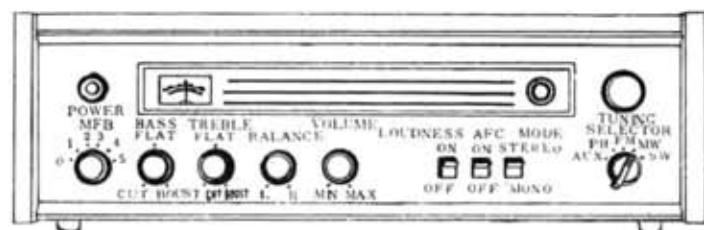
やりやすさをねらっています。電源スイッチは、プッシュプッシュスイッチにより、演奏開始・終了がスムーズに行なえます。

ラウドネスコントロール・モード切り替え(モノラル・ステレオ)・AFCの各スイッチは、レバー方式を採用し、操作は至って簡単です。このレバースイッチは、セレクトスイッチと音量ツマミの間にまとめられています。

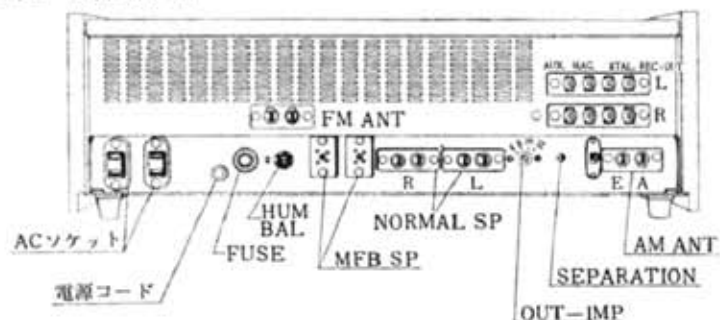
電源スイッチをONにしますと

プッシュスイッチの透明ボタンが光り、またダイヤル面の文字が目盛り板の中を通過してきた屈折光によって輝き、パネル面から浮き上がって見えます。ダイヤル面左側には同調メータ、右側には、FMステレオ放送受信時に光るステレオアイを配置しています。オイルフィニッシュ加工のキャビネットは、ヘヤーライン仕上げのパネルや、金メッキしたツマミ類とよくマッチして、豪華で落ち着いた雰

第1図 ツマミの働き



第2図 後部端子板



回気をかもし出しています。

セットの接続端子側を見ますと(第2図)、後部より見て右側にAMアンテナ端子・AMアンテナDX-LOCAL切り替えスイッチ・FMステレオセパレーションツマミ、その上部に入力端子群を配置し、中央にはスピーカ接続端子のL出力、R出力がそれぞれMFB(4P角型ソケット)専用と、一般用(2Pネジ式端子)が設けられています。この左側にはハムバランスツマミがあり、さらに後部より見て左端には、外部供給用の電源ソケットを2個とネジ式ヒューズホルダーを設けています。FM ANT 端子は、このヒューズホルダーの上部に配置しております。さて、キャビネット(外側のケース)は、左右側板の4本のネジをはずし、前面パネルからツマミを引き抜くと、はずすことができます。

シャーシ上の配置は、シャーシ後部に一番重量のある電源トランスと出力トランスを左右に振り分けて、その間に、電力増幅管30M-P27を4本一直線に並べていま

す。これと並行して、シャーシ中央を右から左に、FM中間周波増幅段が配置されています。

シャーシ右前方には、サブシャーシに組み込まれたFM高周波ブロックが、また左前方には、プリアンプがそれぞれ位置されています。FMステレオ受信回路(FMマルチ)はシャーシ前方中央に組み込んでいます。中波放送用のパーアンテナは、シャーシ前方でキャビネットの内部に組み込んであります。ここはちょうど木製の部分の下となるため、アンテナの感度が下がることはありません。

シャーシ内部の点検には、底板止めのセルフタッピングビス10本をはずしますと容易に行なうことができ、さらにこの時、セットのゴム脚はシャーシに付いたまま残りますので、調整操作が、非常に楽になります。

## (2) 回路構成から見たSA-51

第3図は、SA-51のブロックダイアグラムです。まず高周波部から見て行きますと、FMチュー

ナ部は双三極管6AQ8を用いたヨーロッパタイプとなっており、6AQ8前段で、ツヴィツシェンバーシス型の高周波増幅を行ない、後段で自己発振及び周波数変換を行なっています。(シヨップ誌「技術」38年3月号、22頁参照)

バリコンはAM・FM用の4連バリコンです。FM中間周波増幅段の終段で検出される発振周波数の変動分に相当する直流電圧を、バリキャップSC-15に加えてAFCを働かせています。

一方AFC用のダイオードにはバイアスをかけてやらねばなりません。ところが電源電圧が変動して、バイアスが変動すると、AFCが逆効果となることがあります。これを防ぐのに、このバイアス回路にはネオン管を用いてバイアス電圧を安定化し、電源変動に強くしています。中間周波増幅部は、6BA6をAM・FM兼用にし、その後FMの場合は6AU6の2段リミッターで対雑音特性を良くしています。FM検波はレシオ検波で、さらにリミッタ効果を持たせています。

第3図 SA-51 のブロックダイアグラム

